

O・F・ボルノウは、その著書『希望の哲学』（新紀元社）の中で、ドイツ語には、知性に当る語に、二つの異なった意味の語があると述べている。その一つは悟性と訳される *Verstand* という語であって、理解する能力や技術を指す。悟性は、それ自体としては、善いものでも悪いものでもなく、「むしろただ、役に立つ道具にすぎない。」だから、「冷い、計算的な悟性は、罪ぶかい激情に仕えることさえできる。」戦争に奉仕する科学はその一例である。それに対して、理性と訳される *Vernunft* は、これとは違つた成り立ちを持っている。これはもともと、「聞く」という語から由来する。本心に立ちかえるというときの本心は、ドイツ語では、理性という語に置き換えることができる。自分の本心（理性）を失つて、何かに憑かれている人、「そんな人間とは誰も話ができない。彼は、自分の興奮から生れた孤独の中に閉じこめら

れて、他人が耳許に伝える理性の声を、もはや全く聞くことができない。」しかしその人がまた理性にかえる（正気にもどる）と、再び「話せば分かる男」になる。こういう理性は、先に述べた悟性の上に立つものであって、「和解の精神をもつて双方から歩み寄りながら、対立の克服を求め」共存の可能性を作り出す。理性をもった人は、自らの本心に耳を傾けつつ、他人との間に共通な世界を作り出そうとする人である。

このボルノウの知性論に教えられる所は大きい。悟性だけを訓練して、理性を養つておかないと、本来は高貴な理想も一方的になり、排他的になりかねない。子どももおとなも、自分の本心に立ちかえって生きることを必要としている。日頃の忙しい生活の中では、知らぬ間に何かの観念や欲にとりつかれて本心を失っていることがある。夏休みには「閑を志す」ことの大切な所以である。（津守）

幼児の教育 第七十八巻第八号

八月号 ◎ 定価二五〇円

昭和五十四年七月二十五日 印刷
昭和五十四年八月一日 発行

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 真
発行人

112 東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ一二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎ 本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします

※万一製品不良本がございましたら、おとりかえいたします。